

各 位

会社名 価値開発株式会社
 代表者名 代表取締役社長 高倉 茂
 (コード番号 3010 東証第2部)
 問合せ先 取締役管理本部長 本谷 吉生
 (TEL:03-5822-3010)

平成 27 年 3 月期連結業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

平成 26 年 11 月 13 日に公表いたしました平成 27 年 3 月期 (平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで) の連結業績予想値と実績値に差異が生じたので、お知らせいたします。

記

1. 予想値と実績値との差異について
 平成 27 年 3 月期の連結業績予想値と実績値との差異 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想値 (A) (平成 26 年 11 月 13 日発表)	5,390	20	190	170	1 円 28 銭
実績値 (B)	5,445	53	216	125	0 円 94 銭
増減額 (B-A)	55	33	26	△45	—
増減率 (%)	1.0%	165.2%	13.8%	△26.3%	—
(ご参考) 前年実績 (平成 26 年 3 月期連結会計年度)	5,551	△55	△174	88	0 円 68 銭

(金額の単位：百万円)

2. 差異の理由

売上高及び営業利益の差異の要因は次のとおりであります。ホテルセグメントは、訪日外国人旅行客の増加を、海外集客力に秀でたベストウェスタンブランドが、円安による客単価の上昇もうまく取り込んで、売上高 64 百万円、営業利益 53 百万円、のいずれも計画超過となりました。不動産セグメントは、賃貸事業において解約が 1 テナントあったことに加え、老朽化した物件のリニューアルコストが高んだことなどもあり、売上高 9 百万円、営業利益 20 百万円、のいずれも計画未達となりました。この結果、営業利益は計画を 33 百万円上回る上方修正となり、7 期ぶりとなる営業利益の確保に至っております。

経常利益の差異の要因は次のとおりであります。営業外収益は、復興ファンドに係る投資事業組合運用益が好調な結果となり、37 百万円の計画超過となりました。営業外費用は、もともと次期において予定していた金融債務のリファイナンスを、支払利息の抑制と借入の長期化を目的として当期に早めた結果、計画外の支払手数料が発生し、44 百万円の計画超過となりました。この結果、営業外収益と営業外費用の計画上の収支差が 7 百万円生じ、経常利益は、営業利益差異 33 百万円を 7 百万円圧縮し、計画を 26 百万円上回りました。

当期純利益の差異は、次期に予定していた子会社の清算を、次期の利益確保を目的として早めたことで、計画外の税務上の利益が発生し、法人税等が 68 百万円の計画超過となったこと等により生じました。この結果、当期純利益は、経常利益差異 26 百万円を 71 百万円圧縮し、計画を 45 百万円下回りました。

以 上